

事務事業名		敬老祝金贈呈事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 やさしくふれあいのある健康福祉づくり					担当組織	担当部	健康医療部	担当課	いきいき高齢課
	政策	3 助け合い生きがいを実感できるまちづくり					担当係	高齢福祉係	担当課長名	片柳利幸	
	施策	1 豊かで健やかな長寿社会の実現					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 生きがいづくりと社会参加の促進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	4834	一般	3	1	3	敬老祝金贈呈事業					
	事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業		任意的事業・義務的事業		任意的事業		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	平成2年度～ 年度		根拠法令 条例等	佐野市敬老祝金条例					
	実施方法		実施方法		直営		事業分類		現金・現物給付事業		
	リーディングプロジェクト		リーディングプロジェクト		該当なし		市長マニフェスト		2-9		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
88歳、99歳及び100歳以上の方を対象とし、年齢に応じた敬老祝金を贈呈する。100歳の方については市長が該当者宅を訪問し、慶祝状等を贈呈する。平成24年度から77歳の祝金を廃止した。			88歳、99歳及び100歳以上の方を対象とし、年齢に応じた敬老祝金を贈呈した。100歳の方については市長が該当者宅を訪問し、慶祝状等を贈呈した。							
活動指標			単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)		
敬老祝金の贈呈者数			人	636	705	750				
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
市内在住の年度内に88、99、100歳以上に達する方。(9月1日現在で生存していること)			対象指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
65歳以上高齢者数			人	31,140	32,923	34,706				
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
目的 長寿を祝い、生きがいをもってもらう。			成果指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
対象者の割合			%	2.0	2.1	2.2				
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
生きがいをもって生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。			上位成果指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
ふれあいサロン参加者数			人	61,082	62,341	66,300				
老人福祉センター利用者数			人	148,959	163,843	144,000				

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円	16,728	18,680	21,898					
	事業費計(A)	千円	16,728	18,680	21,898	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償物資費	229	報償物資費	269	報償物資費	402		
			敬老祝金	16,210	敬老祝金	18,070	敬老祝金	20,960		
消耗品費			12	消耗品費	21	消耗品費	56			
印刷製本費			8	印刷製本費	8	印刷製本費	14			
筆耕翻訳料			6	筆耕翻訳料	13	筆耕翻訳料	18			
委託料			263	委託料	299	委託料	448			
人件費	人	1	2	2						
のべ業務時間	時間	300	300	300						
人件費計(B)	千円	1,167	1,182	1,182	0	0				
トータルコスト(A)+(B)	千円	17,895	19,862	23,080	0	0				

事務事業名	敬老祝金贈呈事業	担当部	健康医療部	担当課	いきいき高齢課	担当係	高齢福祉係
-------	----------	-----	-------	-----	---------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	国、県にも100歳慶祝事業があり、平成2年度から市の事業として実施するようになった。平成20年度から対象者を変更し、80歳、90歳を迎える方への祝金を廃止した。平成24年度から、77歳の祝金を廃止した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	高齢者人口、高齢化率ともに上昇している。100歳に達する方の人数も少しずつ増加している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	外部評価委員から、77歳の祝金は廃止するべきだとの意見があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	高齢者に敬老祝金を贈呈することにより長寿を祝い、高齢者に生きがいを持ってもらうことは、社会参加を促し、豊かな長寿社会の実現に向けた政策体系に結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	節目の年に、長寿を祝い祝金を交付するものであり、高齢者の生きがいと敬老意識の高揚を図るため、市で行う必要がある。個人情報ということもあり、民間や市民団体等へ委ねることはできない。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	米寿、白寿、100歳、101歳以上と節目の年齢に、お祝金を交付することで、対象と意図は妥当である。平均寿命が喜寿(77歳)を超える年齢となってきたことから、77歳を対象から除いたことで、より妥当性が増した。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	長寿を祝福し祝金を配付することで、節目の年が当面の目標となるので、生きがいと目的を持って過ごすことができるので、成果は出ている。対象者も祝金も決まっており、成果向上の余地はない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
	*類似事務事業があれば、名称を記入			
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	敬老意識の高揚という目的を考慮すると廃止は望ましくない。平成24年度から77歳を対象者から除いたことで、コスト削減が図られた。人件費については、必要最小限の人数で対応しており、削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案	受益者負担の考えは本事業にはなじまない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
	敬老祝金の対象となる節目の年を目標にして、楽しみにして待っている方がいるが、77歳は、平均寿命にも届かない年齢であり、長寿を祝うという本事業の趣旨に合わなくなってきていることも踏まえ、平成24年度から77歳の祝金を廃止した。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			